

演奏生活50周年記念

舘野 泉

ピアノリサイタル

2011年

1月16日(日)

14:00開演[13:30開場]

山形テルサテルサホール

共 演：ヤンネ舘野 (ヴァイオリン)

孤高の鍵盤詩人 左手のピアニズム
“無限の音楽世界”

Program

バッハ・ブラームス
シャコンヌ 二短調

スクリャーピン
前奏曲と夜想曲 Op.9

吉松 豊
タピオラ幻想 Op.92
(舘野 泉に捧ぐ)

光のヴィネット、森のジグ、水のバヴァース、
鳥たちのコンマ、風のトッカータ

木島由美子
いのちの詩
(NPO 法人 山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクト委嘱作品)
翠雨、紅蓮の池、月読、樹氷原にて、桃花水

パブロ・エスカンテ
ヴァイオリンとピアノのための
夜想曲とロンディーノ

COBA
記憶樹
(「舘野泉左手の文庫」助成作品 舘野 泉に捧ぐ)

チケット

4,000円 (全席指定)

発売日

◆テルサメンバーズクラブ・賛助会員先行予約開始日・・・10月16日(土)～25日(月)

◆一般発売・・・10月28日(木)

プレイガイド

山形テルサ・富岡本店・辻楽器店・山形プレイガイド・大沼本店・十字屋山形店

《お問い合わせ》Mプロジェクト 090-5234-1223 (木村) / 山形テルサ 023-646-6677

※未就学児のご入場はご遠慮願います。なお、当日は、2～5歳のお子様をお預かりする「無料キッズルーム」を開設いたします。

1月13日(木)までに、山形テルサにお申し込みください。

※お越しの際は、できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。また、お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用下さい。

主 催 Mプロジェクト・山形テルサ(財団法人山形市開発公社)
後 援 フィンランド大使館、舘野泉ファンクラブ東北、(社)山形交響楽協会



山形テルサ開館10年記念事業

撮影：満田聡

演奏生活50周年を迎えて 舘野泉

演奏生活40周年を迎えて「青春」「恋する男たち」「星にとどく樹」と、人生を俯瞰するような三夜にわたるリサイタル・シリーズを東京、大阪、札幌、福岡の四都市で行った。2001年のことである。1960年のデビューリサイタルの時の選曲そのままの第一夜「青春」ではエネスク、シューマン、ラフマニノフ、プロコフィエフを演奏し、第二夜「恋する男たち」ではグラナドスの大作「ゴイエスカス」とスカラッチェのソナタ、最終夜「星にとどく樹」ではシサスクの「銀河巡礼」とシューベルトが死の二ヶ月前に完成した変ロ長調のソナタを弾いた。それが終わって一ヶ月も経たないうちに、演奏中にステージで脳溢血に倒れ、半身不随になった。もう、演奏家としては終わりだと思った。

二年半の闘病生活を経てステージに復帰したとき、自分は左手のみで演奏するピアニストになっていた。でも、また演奏出来るということがただただ嬉しかった。嬉しくて嬉しくて、自分が左手だけで演奏しているとか、不便不自由であるとか、そのようなことは一切感じなかった。弾いているのは音楽なのである。片手であろうが両手であろうが、手が三本であろうが、そんなことはまったく問題にならない。

ただ、演奏出来る曲目が少なかったのは事実である。しかし、少なければ書いてもらえばよい。間宮芳生さんの「風のしるしーオッフェルトリウム」が邦人初めての左手の作品として生まれ、林光、吉松隆、末吉保雄、谷川賢作など多くの作曲家達がそれに続いた。アルゼンチン、アイスランド、アメリカ、フィンランドその他世界の各地からも作品が寄せられている。ピアノソロの作品だけではなく、ピアノ協奏曲や室内楽曲も誕生した。

限りなく豊かな思念、詩情、情感、夢が、そして人の心を満たし動かしてくれるものが生まれ続けている。なんと有難いことだろう。



撮影：武藤章

舘野泉 Izumi Tateno (Piano)

1936年東京生まれ。60年東京芸術大学首席卒業。64年よりヘルシンキ在住。68年、メシアンコンクール第2位。同年より、フィンランド国立音楽院シベリウス・アカデミーの教授を務める。81年よりフィンランド政府の終身芸術家給与を得て、90年以降は演奏活動に専念。

06年「シベリウス・メダル」授与。演奏会は世界各地で3000回以上、リリースされたCDは100枚にのぼる。人間味溢れ、豊かな叙情性をたたえる演奏は、世界中の幅広い層の聴衆から熱い支持を得ている。この純度の高い透明なる抒情を紡ぎだす孤高の鍵盤詩人は、02年脳溢血(脳出血)により右半身不随となるが、04年「左手のピアニスト」として復帰。その左手のために間宮芳生、ノルドグレン、林光、末吉保雄、吉松隆、谷川賢作等第一線で活躍する作曲家より作品が献呈される。命の水脈をたどるように取り組んだ作品は、静かに燃える愛情に裏打ちされ、聴く人の心に忘れがたい刻印を残す。06年左手の作品の充実を図るため「舘野泉左手の文庫(募金)」を設立。同年より、委嘱作品によるリサイタル・ツアー「彼のための音楽を彼が弾く」を行い、毎年新しい作品を発表。07年、吉松隆ピアノ協奏曲「ケフェウス・ノート」(舘野泉に捧ぐ)をドレスデン歌劇場室内管弦楽団と初演し、大きな反響を巻き起こす。08年、長年の音楽活動の顕著な功績に対し、旭日小綬章受章、および文化庁長官表彰受賞。2010年の演奏生活50周年記念公演には、日本初となる左手ピアノのための室内楽作品を委嘱し、全国公演を行なう。エッセイ集「ひまわりの海」(求龍堂刊)、左手のコンチェルト(佼成出版社刊)、左手によるCDは、エイベックス・クラシックスより「風のしるし」など6枚リリース。南相馬市民文化会館(福島県)名誉館長、日本シベリウス協会会長、日本セヴラック協会顧問。

舘野泉公式HP <http://www.izumi-tateno.com>

ヤンネ舘野 Janne TATENO (Violin)

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。ヘルシンキ音楽院でオルガ・パルハメンコ、シカゴ芸術音楽学院にて森悠子氏に師事。ヘルシンキを拠点とする、ラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子氏主宰の長岡京室内アンサンブル、ユーシア・クアルテット、Tangueros Articosでの出演など、フィンランド、日本の二つの祖国において幅広い活動を展開。2007年オウルンサロ音楽祭(音楽監督・舘野泉)の日本版をプロデュース。以来、全体を見渡せる広い視野と感覚を活かし、プロデューサーとしても活躍している。

